

# 夏休み中の勤務改善について要求！

## 市町教委や管理職へはお願いしている！（県教委）

香川教育

発行所  
高松市田村町1033-3  
TEL (087) 867-4797  
FAX (087) 867-6446  
香川県教職員組合  
定価 1部50円 1月100円  
組合員の購読料は組合費を含む

香教組ホームページ

<http://kakyoso.com/>

### 書記局閉鎖の

#### お知らせ

夏季休業

8/12（金）

8/15（月）

8/16（火）

全国書記局会議

参加のため

8/25（木）

8/26（金）

香教組は、7月8日（金）夏季休業中の勤務条件の改善について県教委へ要求しました。  
夏季休業中の勤務対応についても、「『適正に』運用されている」の実態が、市町教委、学校差がかなりあることについて、県教委の見解を聞きました。



回答する八木沢義務教育課長

### 研修や行事の精選と十分な割り振りの確保を

#### 香教組

夏休み短縮によって休業中の行事が短期間に集中している。また、部活動もあり、教職員は十分に休養できないのが現状である。

#### 県教委

できる範囲のことではしている。行事を入れられない期間を確保することをお願いし、休みが取れるようにしている。運用は実際に任せている。そうでない事例があれば聞かせていただきたい。

#### 香教組

「研修と休養をしっかりとって」という県教委の言葉は何回も聞いてきたが、校内の現職教育の回数が増えた。休養できない。

#### 県教委

「休養」とは言えない。「9月へ向けてのリフレッシュ」ととらえている。市町教委の権限に基づいて運用されているところには、県としては言えない部分が大い。ご理解いただきたい。

#### 香教組

小学校は、現教、中学校は部活動などで夏休みに年休も取りにくい。学校差、校長の対応差が大きい。

#### 香教組

年休を取りやすい方法を校長会などで広げて欲しい。

#### 県教委

情報発信はこれまでもしてきた。これからもしていきたい。

#### 経年研修者には特に配慮する

#### 香教組

近年5年経験10年経験者研修が長期休みに集中している。また、校内の行事も含めると、割り振りだけでなく夏季休暇も取りにくい現状だ。校内で配慮するよう管理職を指導してほしい。

#### 県教委

お願いはしている。

#### 容易に夏休みの短縮をしないこと

#### 香教組

今年度は坂出市が「課外授業」という扱いで全員登校させ夏休みを短縮している。夏休み短縮についての見解を聞かせてほしい。

#### 香教組

丸亀市のある小学校では夏休み中に4日間補習を行うようになった。

#### 県教委

教育界以外の要望が強い。県教委が言えないこともある。

#### お盆期間は学校閉鎖を

#### 香教組

お盆の期間（8月13日～15日）は学校閉鎖にすること。善通寺市は、

#### 県教委

具体的事例があれば教えて欲しい。

#### 県教委

校長の考え方。管理職が一人もいない学校があるとは思っていない。

#### 教員免許更新講習優先を

#### 香教組

夏休み短縮や通などで、夏季休業中の研修や校内現職教育が詰まっている。中には、教員免許更新講習と重なっている場合がある。管理職によっては、公務優先という人もいる。教員免許を失効すると失職する。更新講習優先ではないか。管理職を適切に指導してほしい。

## 全国寄宿舍学習交流集会in香川

テーマ「学ぼう 伝えよう 寄宿舍の魅力を！」  
～その感動を 香川県で見つけるけん～

- 日時 7月30日（土）12時30分～16時30分  
7月31日（日）9時30分～16時30分
- 場所 香川県社会福祉総合センター
- 内容

1日目 記念講演「寄宿舍がある学校の魅力と役割——子どもたちが語っていること——」

猪狩恵美子 福岡女学院教授

知っ得講座（6講座）

2日目 実践分科会（5分科会）

- 参加費 2日間参加 3000円  
1日のみ参加 2000円  
学生・保護者 1000円

詳しくは香教組本部 TEL087-867-4797

[kakyoso@kakyoso.com](mailto:kakyoso@kakyoso.com) まで

## 世代交代

▼そう、分かっている。しかし、長時間過密労働、子どもたちの多様化、保護者対応の複雑さは30年前と明らかに違う。ベテラン教員にもゆとりがなくなってきた。ゆとりがなくなるとは、相手の立場にも立ちにくいし、優しくなれない▼教育界の発展と充実のためにも、教職員を増やし、1学級の定数を35人以下にすることは急務だ。児童生徒の貧困の格差を解消することも▼管理職が世代交代を焦るあまり、時間外早朝に〇〇塾参加を義務付けたこともある。それも負担だったと聞く▼教育はテクニクではない。協働で子どもを育みながら、先輩から自ら学んでいくものではないのか。短期間で習得できるものではないと思うが：

### 小黑板

学校現場の教職員の平均年齢が下がっている。「現場は若いエネルギーで溢れているだろう」と思いきや、そうでもない▼即戦力を求められ、若年教員はヘトヘト。病氣休職者も少なくない。ベテラン教員はジェネレーションギャップに翻弄されながら、自分の学級や分掌と若年教職員へのアドバイスなどでヘトヘト▼職場を訪問すると、あちらこちらで愚痴がこぼれる。50代後半の世代は、若いころ同じような時期を経ているはずだ。「大人もみんな子どもだった。大人はそのことを覚えていない」「星の王子さま」の一節だ。ベテランもみんなかつては新採だった。だから、同じように求めることはできない。



平和を

# 今だからこそつながりたい！ 高松空襲跡を歩く会



高松空襲体験や戦後の復興の様子を学ぶみなさん

7月4日(月) 8.15戦争体験を語りつぐ集い実行委員会による「高松空襲跡を歩く」会が行われました。今年で27回目です。80名を超える参加者でした。下校途中で参加した高校生、中学生や小学生の姿もあり、残り少ない空襲の跡を回りながら、体験者の話を聞きました。次々と体験が語られる中、空襲でやけどを負い重度障がい者になった兄とともに戦後を過ごした方の話は、戦争を知らない世代にぐっとくるものがありました。

「私は戦後生まれです。高松

空襲も知りません。兄は空襲の被害者であり、戦後ずっと障がいを抱えて生きてきました。差別されたこともあります。私は、戦後生まれだけでも、ずっと戦争を引きずって生きてきました。」

戦争は一瞬にして日常を奪います。私たちは、奪うことも奪われることもしてはならないと確信しました。

広島平和学習に向けて授業を組み立てたいと参加した宮本さん(川添小)は、「知らないことばかりで自分が恥ずかしくなったが、その分新鮮な気持ちで聞くことができた。…私たち戦争を知らない世代は、正しく学び、知り、語り継いでいかなければならないと思った。明日、早速子どもたちに伝えたい。」と語りました。

第37回

8.15戦争体験を語り継ぐ集い  
8月15日(月) 13:30～  
瓦町flag 8階 会議室

## ◆香教組第312回中央委員会

- ・日 時 2016年8月27日(土)9:00～
- ・場 所 高松テルサ 視聴覚室
- ・参加者 各支部・専門部中央委員

2月の定期大会以降の職場の様子や情勢について話し合います。

お近くの組合員もしくは香教組  
(087-867-4797 kakyoso@kakyoso.com)まで  
情報をお寄せください。

## 第3回パワーアップ学習会のご案内

2017年度教員採用選考試験に向けて対策講座を開催します。2次試験に向け、「個人面接」のポイントをお話したり「論文添削」を行ったりします。お誘いあわせの上ご参加ください。

- 1 日 時 8月12日(金) 18:00～20:30
  - 2 場 所 高松テルサ 大会議室
  - 3 参加費 300円(資料代)
- どなたでも参加できます。  
直接会場にお越しください。

主催 公益財団法人津田教育会館 共催 香川県教職員組合

# 夏の教育講座

「他者とつながろうとする心の核  
はどこから生まれるのだろう」

—音楽に聴く育ちの原点 柔らかな皮膚しかないわけは—

子どもの指導や子育てに日々苦心している先生方、お父さんやお母さん方!!

学校や家庭で、子どもが健やかに育ってほしいというの誰の願いでも。今回は、「五感ではなく子どもの心」の著者で、尚綱学院大学・女子短期大学部保育科名譽教授の岩倉政城先生を講師に、教育や子育て(共育)のアドバイスをいただきます。全国大会でのご講演に感動した香教組女性部の強い要請で実現しました。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日 時 2016年8月27日(土)午後1時半～  
場 所 高松テルサ視聴覚室(高松市屋島西町)  
講 師 岩倉政城先生(尚綱学院大学名譽教授)

### 講師紹介

尚綱学院大学名譽教授。教育学博士。新日本医師協会会長。東北大学病院で30余年保健活動と診療に携われる。2014年まで尚綱学院大学教授として子どもの保健、母子保健、精神保健を教授。名古屋市子育てサポートセンター委員。主な著書:「ボクってすごい。アタシってすごい。と思える子を育てる」「かみつく子にわけがある」「五感ではなく子どもの心」「えんちようピッ ビの育てたより」「指しゃぶりはわけがある」「口を通した子どもの発達」「口から見た子育て」など多数。主な活動:2015年国連防災会議で尚綱スタッフと共に「震災から・放射能から子どもを守る」をプレゼンテーションなど。



もうすぐ夏休み。子どもたちもそして先生たちにとっても「ほっと」一息つける期間です。夏休み前の4カ月間、いろいろと気を遣いながら学校生活を送った子どもたちにとっては、自分を見つめ直し、未来へ一歩踏み出すのに大切です。「夏休みにしかできないことをしよう!」

### シリーズ「子どもとかわる」⑦ 子どもたちにとっての夏休みは…

「〇〇を体験した」それも貴重な経験であり子どもたちの成長につながるのだと思います。一方で、「ゆっくり家で過ごした」「読書をした」「ずっと家事を手伝っていた」「とにかくダラダラした」こんなことも、夏休みにしかできないことだと思ふのです。

この夏休みをどう過ごすか、「おでかけ」が当たり前のような指導をする教師はいないと思います。夏休み前の子どもたちへの話の内容をもういちど、見直してみる時代がきているように思います。

夏休みをどのように過ごすか、それは、子どもたち一人ひとり違います。その違いを大切にしたいと思ふのです。そして、子どもたちの成長には欠かせない期間だと思ふのです。